



# からしだね

2020年4月号  
(559号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



## 本号の記事の主題など

みなさん ノノイ神父  
評議会議長就任にあたって  
耐震改修工事が始まります

大人の日曜学校だより 2月16日  
4月の主日ミサなどにおける福音など  
4月号の表紙絵について

みなさん

ノイ神父

「ロックダウン(=封鎖)」という言葉が、ますます普通に使われるようになって今日この頃です。いまこのとき、数百万のひとがどんな風に暮らしているか、その状況を語るのがロックダウンだからです。おなじことが日本でもどうも起きかけているようです。

たとえば礼拝のために集まったりしないよう求められていますし、非公式の小さなグループでも互いに近づいて集まるのも御法度(ごはつと)です。それぞれ自分の家に、ますます籠もりきるようになりました。この世界規模の疫病をまえに恐れるのはあたりまえですが、同時にわたしたちは、もっとも弱い立場の人たちを助けようという思いをいつそう強めるようともしています。知らないうちにウイルスを自分がつしたりしないように気をつけたいものです、外出を控えるのもそれが理由です。というわけで大阪司教区は4月いっぱい全公開ミサを中止すると決めました。

公開ミサとそのほかの典礼行事中止は、全世界にたいするカトリック教会の信念に基づく協力です。どれほど時間が必要になろうと、ミサへの「渇き」を耐えましょう、そうすることがより広い社会のため、とりわけもっとも弱い人たちのためを思うことになるのですから。世界が必要とするものに無関心ではいられないわたしたちです。ですから、これを愛の行為とし、こうした状況のまっただなかに神がおられることを証しする、よき機会としようではありませんか。

知ってのとおり、コロナウイルスは紛れもない現実の脅威です。戦いは果てしないようです。いままで、ますますひどくなる不安と混沌のなかに暮らしているような気がしてきたのはそのせいです。多くの人にすれば、ほとんど耐えがたいほどでしょう。

いま経験し耐え忍んでいる四旬節は、じっさいたいへん長く、ずいぶん違った四旬節です。復活祭が間近だと思えないほどですね。こんな四旬節は、これまでおそらく経験したことがない。ほとんど対処できないほどの深い孤独が支配する砂漠に、わたしたちは放りだされたようなものです。

神はしかし、悪を善に変えるのが常です。病人に寄り添う医療従事者、お医者さんや看護師さんのことをわたしは思います。この危機の時にあって、たいへんな危険を冒しながら、みんな働いている。人に与える行為がなんであるか、驚くべき証人が

大勢いるのです、そうです、感染爆発があるとしても、人に与える行為も信じられないほど爆発しているのです。

キリストは死に打ち勝ち、よみがえりました。彼の耐えた残酷な暴力が、わたしたちすべてを救った。特にこのことを、いま試練のときにあつて、わたしたちは真実ふかく信じなければならない。わたしたちすべてにとって、この地球規模の疫病を神さまの恵みのひとつのかたちとしましょう。教皇さまは違う方法をわたしたちにお示しになりました。それはクリスチャンが祈りでひとつとなる昔ながらのやり方です。まわりにいる人たちとだけでなく、神の民すべてと思いをひとつにする祈りを再発見する必要があります。

忘れてはなりません、神は「わたしの神」ばかりでなく「わたしたちの神」でもあります。イエスがわたしたちに与えたただひとつの祈り、「主の祈り」はわたしたちにイエス自身が教えられたものです。それは「わたしたち」についての祈りであり、祈るのは「わたしたち」であり、「わたしたち」が必要とするものを求めるのはわたしたちなのです。イエスの初期の信者たちは、たとえ自分だけしかいなくても、個人で祈っているとは考えなかったと言います。

世界規模の疫病を目の前にしながら、主の祈りとなえることに込められた、この深い態度を再発見するのは素晴らしいと思います。朝、昼、晩と毎日三回、沈黙のままでも大きな声でもいいから主の祈りをとなえましょう。そんなふう祈るとき、わたしたちは神を父と呼ぶ残りのわたしたちとひとつになります。わたしたちの兄弟姉妹(特に病床にある人、苦しむ人たち)がどこにしようと、毎日いっしょになって祈りましょう。

次の箇所もお読みいただき、黙想くださるようお薦めします。

- ・枝の主日—マタイ21:1-11,
- ・聖木曜日—ヨハネ 13:1-15
- ・聖金曜日—ヨハネ 18:1-42
- ・聖土曜日(タベ)—マタイ 28:1-10

神はわたしたちを必要とされるところに配置なさっています。いまのような難しい状況にあつて、こうすることがわたしたちの信仰を表現し、日々の暮らしのなかで信仰を経験する新しい方法なのでしょう。私自身は自分ひとりだけで典礼を守り、典礼をおこないますが、わたしの祈りのなかには、みなさんがいることをしっかりと保証します。

「典礼暦年の中心であり、イエス・キリストの贖いの業と復活を記念する聖週間の典礼を、共同体として共に過ごすことができないのは、まことに心が痛むことです。

新型コロナウイルス感染で苦しむ患者、治療や介

護にあたる医療関係者、信者の世話にあたる教会関係者、そして亡くなられた方々のために祈りながら、また、この災禍が一日も早く終息するよう祈りながら、聖週間を過ごしてまいりましょう。」

2020年4月2日

## 評議会議長就任にあたって

### 2020年度評議会議長

こんにちは。2020年度評議会議長を拝命いたしました。評議会議長は2015年度に続き二回目の登板になります。よろしくお願いいたします。

昨年度副議長を拝命するに至った経緯は昨年度の議長より、議長をされながらも納骨室問題解決に向けてご苦勞されている姿を見ておりせめて副議長選出の苦勞はされなくて良いようにとの思いでお引き受けすることにいたしました。

その納骨室問題も解決し、次に控えている御聖堂の耐震補強工事の方も耐震委員会委員長をはじめ耐震委員の方々の多大なるご尽力により着工にまで至っておりますので、安心して余裕で私の評議会議長シーズンのスタートを切るはずでしたが、神様は良く見ておられます。突然巻き起こった新型コロナウイルス問題でいまだかつてない状況での議長シーズンのスタートとなりました。

この「からしだね」がお手元に届くころには既に皆様良くご存じの事と思いますが、4月に入って大阪大司教区から第5弾の要請がきております。まず、4月末までの公開での御ミサは中止するというものでこれで約二か月間御ミサにあずかれないことになりました。4月末までに収束の兆しが見えれば良いですがそれでは済まない可能性もございます。四旬節のお祈りやとりわけ聖週間を池田教会の信徒の皆様とお祝いできないことは非常に残念で仕方ありませんし、皆様のご心痛をお察いたします。

しかし、今回の新型コロナウイルスの大きな脅威は罹患していたとしてもほとんど無症状の人がいる事。その無症状のひとからでも感染する可能性がある事。感染した場合お年を召された方や基礎疾

患のある方は重症化し場合によっては命を落とす危険性がある事。

池田教会のみならず現代社会はかなりの割合でお年寄りがおられることを考えると、自分がかかる以上に自分が感染源になってしまうことを恐れてしまいます。カトリック教会にとって非常に大切なこの聖週間の教会活動を一時的にストップしても感染すること、感染させることについてのリスク軽減を図る措置については喜んで協力したいと思います。

いつかかならず終息します。それまでは皆様どうぞご自分を大切に、多少つらくても比較的安心な自宅にできるだけどまるように、そして犠牲者を出すことなく一日も早い終息を迎えることが出来るようお祈りください。

来年3月末まで皆様の評議会の議長としてサポートしてまいりたいと思います。

耐震工事について一つお願いをしなければいけないことが起こりそうです。耐震工事は4月末までの公開ミサ中止が決まっている期間中4月20日に始まります。耐震委員会と設計会社、工事請負会社との三者協議を再度行いますが、最悪のケースでは工事スタート前に御聖堂の長椅子を運び出さないといけない事態が起こる可能性が出てきました。その場合、信徒のとりわけ力のある若い信徒の皆さんに椅子の移動をお願いしなければいけない可能性があります。教会活動停止中での運び出しになりますので各地区の連絡網などを用いて耐震委員会からお願いの連絡をしますのでその時はお力添えをお願いいたします。



## 耐震改修工事が始まります

耐震委員会委員長

一昨年度より、皆様のご協力により、今月より聖堂の耐震改修工事を始めることができます。

多くの寄付、ご意見を賜ったこと、ご不便をかけることに協力いただくことなど、信徒の皆様へ感謝いたします。

主な工事内容は

### 耐震工事

- ・上部窓外に耐震部材
- ・天井内に耐震ブレース補強
- ・小聖堂、トイレ側外に控壁設置
- ・東西コンクリート壁上に控壁設置

### 建築改修

- ・トイレのバリアフリー改修
- ・空調設備変更
- ・玄関扉更新
- ・東側空調機械室撤去
- ・塗装仕上げ

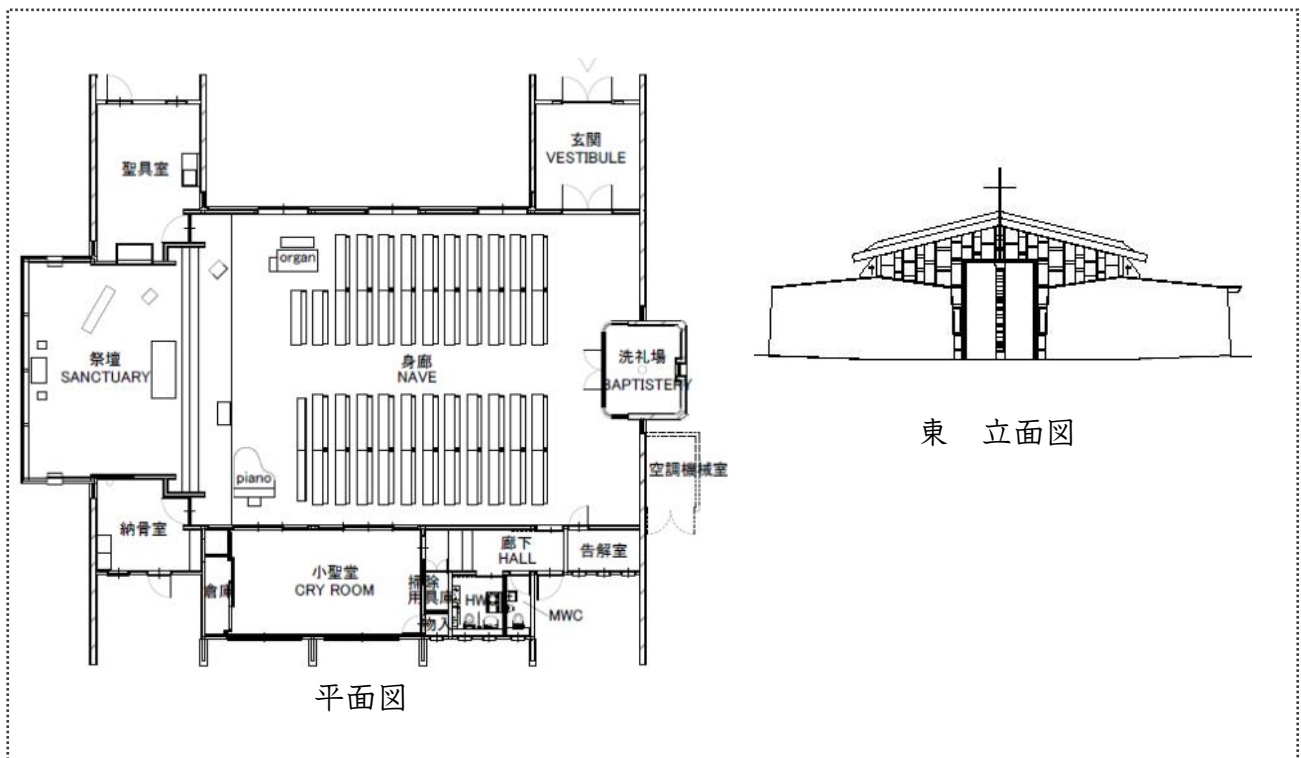
などです。

コロナ問題が収束していないのですが、今後も工事を進めていく中で色々ご協力をお願いすると思います。よろしくお願いいたします。

工事中の注意点ですが、工事中は聖堂に仮囲いがなされ、中には一切はいることができません。危険ですので、近づかないようにお願いいたします。

また、ミサが再開されますと、カール記念館でのミサを行いますのでご協力をお願いいたします。昨今のコロナ問題で狭いところで行えないかもしれません。このことについては、今後神父様と協議します。決まりましたらお知らせいたします。

教会にいらっしゃるときの自転車、自動車の置き場については、平日と土曜日は工事関係者の指示に従ってください。工事車両などにもご注意ください。



4月のガラスケースのことば  
天は神の栄光を語り大空は御手の業を示す

詩篇 19・2

## 大人の日曜学校だより 2月16日

「わたしが来たのは律法や預言者を…完成するためである」マタイ 5・17

この週の箇所はイエス様の口からお命じになられたことがたくさんありました。たとえば「天にかけて誓ってはならない」とか「あなたがたは『然り、然り』『否、否』と言いなさい」などです。そこで、図らずも思い出すのは、学生時代に習った「ネガティブリストとポジティブリスト」という考え方があります。要は、ネガティブリストというのは「これとこれとこれはしてはいけない」だけれども、あとは何をしてもいい。逆にポジティブリストというのは「これとこれとこれはしてもいい」しかし、それ以外のことはしてはいけない、というものです。

教会という場所を考えたとき、ポジティブリスト的かネガティブリスト的か、強いてそのどちらかというところ、ネガティブリストに近いように私は感じます。それは教会がネガティブだとか、どっちが良い悪いと言っているわけではありません。むしろ「これとこれとこれは守らなくてはいけない」だけれども、あとは「自由」という空気というところ、分かりやすいでしょうか。例をあげると、ミサや典礼、その他の業務などの緊張した時間がある一方、それ以外の部分は比較的「ゆるい」という感じ。また、人と人との関係でいうと、その点、ラフに(粗っぽく)なりはしないか心配になることもあります。

ですが、それもある面ではそのことによりバランスが取れているということもあるかも知れませんし、他方、昔のカトリックのミッションスクールなどは、ある日のわかち合いで教えてくれた方から聞いた話では、どうもポジティブリスト型だったようです。つまり「こうありなさい」そして、それ以外であってはいけない、というスタンスで、そこには古くからのカトリック教会の教育の厳しさがあらわれていたとも言えそうです。

ただ、それも今は昔。いつの間にか、時代はネガティブリスト型が主流となっていったのは、主としてそれだけ「世俗化」がすすんだせいもあるでしょう。また、現教皇様がさまざまな改革を行っていることを考えると、遠からずさらに新しい教会像に変わってゆく可能性もあると思います。現在、大人の日曜学校ではそうした中、緩衝役となりながらたわいのない雑談もまじえて霊的な時間を深めるのに取り組んでいます。

研修委員会

## 4月の主日ミサなどにおける福音など

- 枝の主日 ①マタイ 21・1-11  
②イザヤの預言 50・4-7  
福音:マタイ 27・11-54
- 聖木曜日 ①出エジプト 12・1-8、11-14  
②一コリント11・23-26  
福音:ヨハネ 13・1-15
- 聖金曜日 ①イザヤ 52・13-53・12  
②ヘブライ 4・14-16、5・7-9  
福音:ヨハネ 18・1-19・42
- 聖土曜日(タベ)  
マタイ 28:1-10
- 復活の主日 使徒言行録 10・34a、37-43  
一コリント 5・6b-8  
ヨハネ 20・1-9
- 復活節第二主日 使徒言行録 2・42-47  
一ペトロ 1・3-9  
ヨハネ 20・19-31
- 復活節第三主日 使徒言行録 2・14、22-33  
一ペトロ 1・17-21  
ルカ 24・13-35

## 4月号の表紙絵について

エル・グレコの「キリストの復活」である。エル・グレコ(1541~1614)はギリシャのクレタ島に生まれ、本名はドメニコス・テオトコプーロスという。ベネチアやローマで画業を学び、画家として生計を立てたが、最終的にはスペインのトレドに住み、多くの祭壇画を描いた。エル・グレコはイタリア語でギリシャ人という意味で、いわばあだ名である。この「キリストの復活」は1590年代後半に描かれ、現在はプラド美術館が所蔵している。なお倉敷の大原美術館ではエル・グレコの「受胎告知」が常設展示されている。

## 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

4月23日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 染野治雄 神父

4月24日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束 神父



### ■ 月例黙想会

4月15日(水) 17:00 ~ 16日(木) 15:30

指導: 染野治雄 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84) 3111

## 編集後記

連日、テレビではコロナウイルス関連のニュースを目にし、不安が募るばかりだ。2月に武漢で明らかになったこのウイルスは4月に入り、感染者が国内では2600人、国外では90万人に迫ろうとしている。医療従事者の方々や感染者の家族に心を寄せて、想いを馳せる。医療従事者の家族の方々も不安でいっぱいの中、仕事に送り出しているのだろう。亡くなられた方、不安の中にいる人、大切な家族を亡くし悲しみの中にいる人が少しでも癒されるよう、家の中で今日も主の祈りを唱える。一日でも早く終息しますように。

Ana